

受賞団体の概要

1. 新潟県	みなみうおぬまくんゆざわまち 南魚沼郡湯沢町	のうじくみあいほうじん たき またのうさん 農事組合法人 滝の又農産[農林水産大臣賞]
<ul style="list-style-type: none"> 新潟県湯沢町は、南北に広がる新潟県の南端に位置し、2,000m級の山々に囲まれた自然環境豊かな地域である。県下でも有数の特別豪雪地帯であり、豊富な雪資源を利用した多くのスキー場があることや、盆地特有の温度差の大きい気象条件と清流を活かして生産される魚沼コシヒカリの産地として知られている。 湯沢町滝ノ又集落は、湯沢町北東部にあり、^{だいげんた}大源太川沿いの山麓に位置する世帯数30戸の農業集落である。農地は標高450mに位置する。 平成21年、全農家が構成員の「農事組合法人 滝の又農産」の設立により、農地の受け皿組織を整備することで「滝ノ又の農業は、滝ノ又で守る」という仕組みづくりを行っている。 		<p>＜位置図＞ 新潟県</p>

＜主な取組内容＞

農林漁業生産面の取組

- 地元産のそばと米を原材料に新たな商品づくりに取り組み、令和5年に乾麺、焼酎を商品化。
- 法人で生産した「かぐらなんばん」を集落内の女性たちが塩蔵加工、加工事業者へ販売。
- 平成30年から観光客向け直売所等で直接販売を開始。地域外の人々との交流の場になり、法人の販路拡大。主力品目である魚沼産コシヒカリについても、オリジナル小袋を作成して、直売所やSNSで情報発信、直接販売率が向上。

生活・環境整備に関する取組

- 郷土料理等の加工体験メニュー提供や体験工房のベテラン職人達が地域住民や地域おこし協力隊員にそば打ち技術を教え、地域の食文化を継承。令和4年度は協力隊員が、新潟県が認定する「なりわいの匠」に認定。
- 総合学習支援と将来の担い手確保に向けた取組の一環として、湯沢町内の保・小・中一貫校と協力して、地区内の小学生に向けた農作業体験を実施。
- 「体験工房大源太」での農産加工体験を通じて、都市との農村交流を実施。体験工房の管理・委託を湯沢町から受けて15年が経過し、のべ約15万人の体験者を受け入れ、地域活性化に貢献。平成26年頃からはインバウンドの客層の受け入れを開始。

2. 富山県	なかにいかわぐんたてやままち 中新川郡立山町	わかみやしゅうらく かんきょう ほぜん かい 若宮集落の環境を保全する会[北陸農政局長賞]
<ul style="list-style-type: none"> 立山町若宮地区は、昭和45~57年度にかけた農地整備事業により整備された農地に囲まれた集落で、稲作を中心とした農業が盛んな地域である。^{とちづがわ}柄津川左岸に沿って集落が位置するため、河川の氾濫などの水害から地域が一体となり農地及び集落を守ってきた、地域の結束が強い土地柄である。 地区内には「清水田の水」と親しまれる湧水を有しており、農業用水として利用するだけでなく、かつては湧水を水源とした簡易水道を整備し生活用水としても使用されており、地域住民による維持管理が行われてきた。 近年は少子高齢化や非農家の増加により、地域の環境整備の人員確保にも苦慮する状況となっていたが、保全会の設立を契機に個々の団体が繋がりを持つことで、地域全体で地域の環境保全活動に取り組む体制づくりを進めている。 		<p>＜位置図＞ 富山県</p>

<主な取組内容>

農林漁業生産面の取組

- ・江ざらいや環境美化活動を住民総出の作業として取り組み、非農家や親子連れの参加が増加。住民間の協調性を醸成。
- ・集落景観を形成する「フラワーロード」の植栽（全長 3.5 km）により、畦畔や法面の草刈にかかる農業者の負担や労力を大幅に軽減し、持続可能な農業活動、多面的機能の維持・発揮に貢献。
- ・農業者のみならず幅広い構成員、団体の参加を得ながら、以前まで個々で取り組んでいた草刈作業を、集中的に、広範囲に、継続して実施。きめ細やかな環境維持、保全活動が行われ、カメムシ等の害虫による農作物被害を効果的に抑制。

生活・環境整備に関する取組

- ・組織活動である定期的な草刈りや江ざらいの他、個々の農業者の自発的な草刈り、非農業者の地域住民によるごみ拾い等、集落の景観に対する美意識を醸成。
- ・植栽活動を行っている若宮親水公園やフラワーロードは住民の憩いの場所となるだけではなく、水汲みや見学のために地域外の人々が来訪し、地域資源である「清水田の水」のアピールや歴史を継承。
- ・40 年以上にわたり年 1 回広報誌「わかみや」を発行し、元日に集落全戸に配布。保全会が設立した平成 19 年度以後は環境保全活動や植栽活動の紹介が広報誌を彩り、地域の活性化に寄与。

3. 福井県	さかいし 坂井市	まるおか しんこうきょうぎかい 丸岡そば振興協議会【北陸農政局長賞】
・坂井市丸岡町は、坂井市の東部に位置し、総面積の 1/3 は穀倉地帯で、町の中心は国の重要文化財に指定されている丸岡城の城下町として発展した。コシヒカリの生みの親「石墨慶一郎」氏は丸岡町の出身地であり、コシヒカリのふる里としても力を入れている。一方、東部の竹田地区は山に囲まれた中山間地域であり、古くからソバの栽培が盛んであった。 ・文化面では、史跡のまちづくり事業の一環である「一筆啓上賞」が「日本一短い母への手紙」を契機として、全国的に有名になり、手紙文化の発信地として定着している。産業では繊維産業が盛んで、細幅織物とゆかた帯は日本一の生産量を誇っている。	<位置図>	福井県 

<主な取組内容>

農林漁業生産面の取組

- ・協議会の構成員が中心となり市場調査を実施し、通常よりも早く収穫したソバは色・風味・食味が良いという特徴から需要があることが判明。通常よりも早く刈り取る玄ソバを「早刈りソバ」として位置づけることで他産地と差別化。
- ・玄ソバとしての出荷だけでなく、早刈りソバ、そば殻を剥いた「丸抜き」など、全国のそば店や製粉業者の要望に応じた様々な出荷形態に対応。実需者への直接販売方式による販路開拓により「そばの里丸岡」のブランド構築に貢献。
- ・そば店や製粉業者から需要に応える形でソバの加工による 6 次産業化に取り組み、年間を通した仕事の創出とソバの販売単価の向上。
- ・中核農家の後継者は農業経営の継承だけでなく、協議会の構成員に加わりそば打ちについても継承。各種イベントでのそば打ちや消費者への PR にも積極的に協力。

生活・環境整備に関する取組

- ・丸岡町では集落センターや公民館などの公共施設でそば会やそば打ちの指導をいたるところで実施。熱心な中核農家の中には自宅の農舎を改修してそば道場を開設する人もおり、多くの人々によりそば打ち文化が伝承。
- ・協議会が主催する素人そば打ち段位認定会では段位認定を目指す本格的な人から、趣味として年越しそばを自分で打つことを目的とした人まで幅広く参加し、そば打ち人口の拡大により丸岡産ソバの消費拡大とそば打ちを通した地域住民との交流に貢献。